

本当に水害を防げるのか？ 5分でわかる川辺川ダム問題

—— 2026年7月5日・生活者の視点から問い直すシンポジウムより

【はじめに:あなたに知ってほしいこと】

2020年7月に発生した球磨川豪雨災害から6年。いま、球磨川の支流である「川辺川」に、日本最大級の治水ダム(流水型ダム)の本体工事着工が目前に迫っています。「ダムができるから安心」——本当にそうでしょうか？ 私たちは次世代にどんな豊かな自然と安全な暮らしを引き継ぐべきなのか、住民の視点から5分で本質がわかるポイントをまとめました。自分事として、一緒に考えてみませんか。

1. そもそも何が起こっている？川辺川ダムをめぐる現状

2026年7月5日、熊本県民交流館パレアにおいて「川とともに生きる未来を考えるー生活者の視点から川辺川ダムを問い直すシンポジウムー」が開催されました。この集まりでは、本体工事着工を目前に控えた今、改めてダムに頼らない治水や、美しい環境をどう守るかが議論されました。プログラムの冒頭に行われた「5分で分かる川辺川ダム問題」では、国や県が推進する巨大ダム建設に対する素朴な疑問や、隠された事実が分かりやすく報告されました。

■ 推進側の説明と「事実」のギャップ

行政は「ダムがあれば令和2年豪雨のような大雨の時に、下流の水位を1~3m低下させ、人吉市街地などの氾濫を防ぐことができる」と説明しています。しかし、この説明の前提となるデータの取り方や予測には、多くの疑問が投げかけられています。

